



令和7(2025)年度 病害虫発生予報 第3号

令和7(2025)年6月20日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

高温性の病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 6月下旬～7月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや少ない**
- (2) 根拠 ・ 向こう1か月の気温は高く (-)、降水量は少ない (-)。
・ BLASTAM(6月中旬)では、一部の地点で感染好適条件が連続して確認された(+).
- (3) 対策 ・ 葉いもちの初発時期(6月中下旬)以降、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
・ 発生が見られる場合は、ダブルカットフロアブル(RACコードF:16.1、24)等、予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備考 ・ BLASTAM(いもち病発生時期予測システム)の情報、薬剤感受性検定結果を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **平年並**
- (2) 根拠 ・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は少ない (+)。
・ 昨年9～10月の再生稲調査での本病の発生は平年並(ほ場率:68%、株率:4%)(±)。
・ 大麦におけるヒメトビウンカの密度はやや少ない(平年比35.5%)(-)。
- (3) 対策 ・ 昨年発病の多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備考 ・ 県内の保毒虫率は低下傾向であるが、コシヒカリなど縞葉枯病に抵抗性を持たない品種を作付けした常発地域では、発生に注意する。
・ 令和6(2024)年度植物防疫ニュースNo.13をHPに掲載中。

3 いちご(親株・育苗) ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は平年並(±)。
・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は少ない (+)。
- (3) 対策 ・ 本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗段階での防除を徹底する。
・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、気門封鎖剤を活用するとともに、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考 ・ ハダニ類薬剤感受性検定結果をHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV))

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い (+)。
・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は少ない (+)。
- (3) 対策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
・ 発生が見られた場合は、アニキ乳剤(I:6)等を散布する。
・ 黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備考 ・ 病害虫防除対策のポイントNo.22、タバココナジラミ類薬剤感受性検定結果をHPに掲載中。

5 りんご 斑点落葉病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い (+)。
・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は少ない (-)。
- (3) 対策 ・ 定期的に予防散布を行い、耐性菌発生防止のためRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 発生を確認したら、ナリアWDG(F:11, F:7)等を散布する。

6 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ フェロモントラップへの誘殺数はやや少ない（－）。
・ 向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）。
- (3) 対 策 ・ 4mm目合以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
・ 山林に近い園地や過去に被害の大きかった園地では、特によく観察し、発生を確認した場合は速やかに捕殺するとともに、薬剤散布を行う。
- (4) 備 考 ・ 気温および湿度の高い日には、夜間の飛来量が増加するおそれがあるため注意する。
・ 令和7(2025)年度植物防疫ニュースNo. 7、[薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

7 なし ナシヒメシクイ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 越冬世代成虫の誘殺数は多い（＋）。
・ 向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）。
- (3) 対 策 ・ 卵及び食入前のふ化幼虫を対象に薬剤散布を行うと効果が高いため、第一世代成虫の発生ピークから7～9日後を目安に薬剤散布を行う。
・ 果実や新梢に食害が見られた場合は速やかに摘果またはせん除を行い、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備 考 ・ 令和7(2025)年度植物防疫ニュースNo. 6、[ナシヒメシクイの誘殺数グラフ](#)をHPに掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
水稻	紋枯病	－	やや多	野菜類	ハスモンヨトウ	平年並	やや多
いちご	炭疽病	少	やや少	なし	黒星病	平年並	やや少
トマト	葉かび病	やや多	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並

【 季節の病害虫防除対策 】

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病(TYLCV：タバココナジラミ)やトマト黄化病(ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・ 施設栽培作物の栽培終了後は、次作に向けて土壌消毒を実施しましょう。植物残さ内の病原菌は消毒されにくいため、ほ場から植物残さを持ち出す等、適切に処分しましょう。また、効果的な土壌消毒の実施のためには、十分な耕起、碎土の実施や、適度な土壌水分管理が重要です。
詳細は、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針の技術情報](#)を御確認ください。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)

- ・ クビアカツヤカミキリが樹木に寄生すると、幹や枝から、レンガ色でうどん状のフラス(幼虫が排出する、木くずと糞が混じったもの)が大量に排出されます。うめ、もも、すもも等の樹木からフラスが出ているのを見つけたら、農業総合研究センター防除課まで御連絡ください。
- ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo. 5](#)をHPに掲載中です。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 本県のトマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。
- ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo. 3](#)をHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は本県での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年6月18日現在、全国36都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
- ・ [サツマイモ基腐病に注意!](#)をHPに掲載中です。

【 農薬の安全使用等 】

○農薬危害防止対策

- ・ 6～8月は「農薬危害防止運動」の実施期間です。
- ・ 農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農薬容器のラベルに記載された内容を確認して使用し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・ 薬剤で防除する際には、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・ 花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○春の農作業安全確認運動

- ・ 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。
- ・ 農業機械の転落・転倒対策、熱中症予防対策、安全意識の向上のための対策等を徹底し、農作業安全に努めましょう。

1か月気象予報（予報期間6月21日から7月20日 6月19日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	10	80
降水量	50	30	20
日照時間	20	30	50

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。

カメムシ防除作戦のホームページも御確認ください（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>）。

